

第5次中期5ヵ年経営実行計画 **V-ACTION for sustainability**

KIZUNA指標の進捗

荒川化学グループでは、2021年度からKIZUNA指標を導入し、サステナビリティに対する各種取り組みの進捗状況のモニタリング・評価をサステナビリティ委員会でおこなっています。

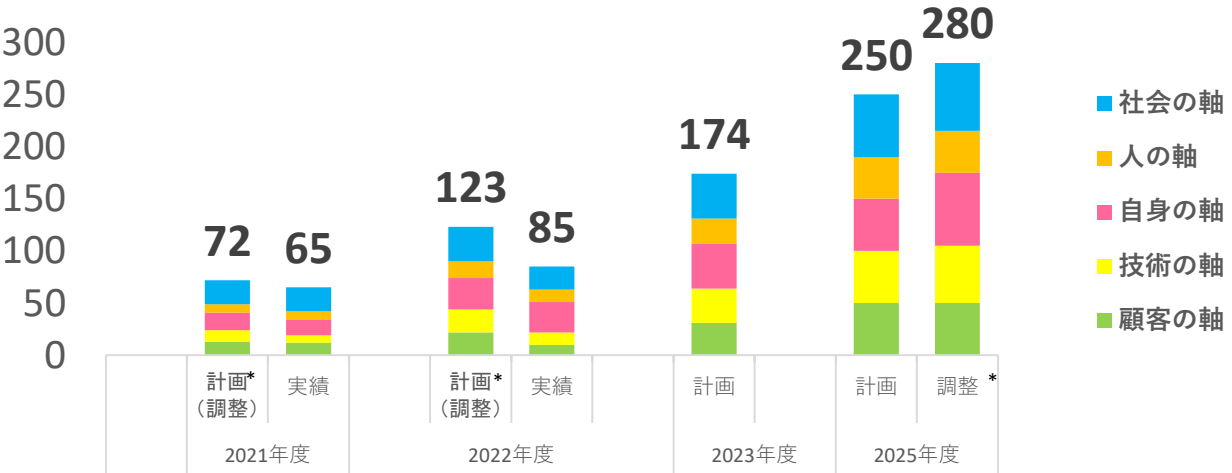
KIZUNA指標は、当社グループにとって優先的な重要課題から設定した「ありたい姿」を実現するための定量化した指標であり、5つのKIZUNAの軸に区分し、各指標に対する配分の重みや進捗によって独自のポイント換算によりモニタリングして管理しています。第5次中計のKIZUNA指標のうちサステナビリティ経営におけるリスクと機会に対する重要な指標としてCO₂排出量削減およびサステナビリティ製品の連結売上高指数向上の2つの指標をサステナビリティ・リンク・ボンド（SLB）にも紐づけており、両指標の達成に向けて取り組みを強化しています。

また、社員個々の貢献計画書にもKIZUNA指標を組み込んでおり、一人ひとりが意識を高め、自分ごと化としてACTIONすることで個人の成長と会社の成長が連動し、**Well-being**となる仕組みにしております。

2022年度の実績は、KIZUNA指標の目標123ポイントに対して達成率69%の85ポイントとなりました。

5つのKIZUNA	各指標に関する進捗（ポイントの乖離）
【社会の軸】 まもる	CO ₂ 排出量削減率は2015年度比50.4%となり、カーボンニュートラル都市ガスや再エネ電気の導入の拡大など2030年度目標を上回るペースで進捗し、保安力評価は向上したものの、休業災害が発生し、計画比大きく乖離しました。
【人の軸】 関わりあう	海外駐在員の邦人指数は計画以上に進捗していますが、海外売上高伸長率やバイオマス度換算販売量指数は業績の低迷に連動しており、計画から乖離がみられました。
【自身の軸】 主役になる	付加価値労働生産性は業績の低迷に連動しておりますが、男性育児休業取得率が92.3%と大幅にアップ、ミッションをSHIFTした数も計画以上に進捗しました。新たな社会貢献活動による加算もあり、順調に進捗しました。
【技術の軸】 技術の伝承と革新	サステナビリティ製品の連結売上高指数は2019年度比17%アップとなり、順調に推移しておりますが、NEXT事業の創出として「そだてる」ミッションへの移行が進まず、大幅に乖離しました。
【顧客の軸】 お客様と共に歩む	持続可能な調達率は順調に推移しているものの、業績の低迷に加え、調達先監査件数が伸びず、品質クレームの発生などもあり、大幅に乖離しました。

K I Z U N A ポイントの推移



*サステナビリティ・リンク・ボンドの発行に連動させた指標やプライム市場への移行にともなう追加指標もあり、KIZUNA指標のポイント配分を調整した

KIZUNA指標実績一覧

5つの KIZUNA	優先的な 重要課題	K I Z U N A 指標	2022年度実績		目標*7	ポ イ ン ト	ポ イ ン ト 合 計
			内容	実績/計画	2025年度		
【社会の軸】 まもる	安全文化の醸成	災害・事故ゼロ継続 （死亡・休業災害等） および 第三者機関による保安力評価、 安全レベルの継続的向上	休業災害1件*8 保安力：業界水準	22/33	災害・事故ゼロ継続 （死亡・休業災害等） 安全レベルの継続的向上 （評価4）	25	65
		C O 2排出量の削減	2015年度比 50.4%削減		2015年度比 30%削減	20	
	環境保全の強化	マツタロウの森の植林活動 および C O 2吸収量評価実施	植林実施、 吸収量6トン/年以上		2026年度までに 約1万本の植林を実施 C O 2吸収量10トン/年以上	5	
		サステナビリティ委員会の 設置と運用	運用		持続可能な経営および企業価値 向上に向けた取り組み実施 （KIZUNA指標の達成）	10	
	ガバナンスの強化	重大な不正やコンプライアンス 違反発生ゼロを継続	0件		0件継続	5	
【人の軸】 関わりあう	事業のグローバル化 推進	海外駐在員の邦人指数*1	24%ダウン	12/16	2019年度比 15%ダウン	10	40
		海外売上高伸長率	29%アップ		2019年度比 50%アップ	15	
		バイオマス度換算販売量指数*2	22%ダウン		2019年度比 7%アップ	15	
【自身の軸】 主役になる	ダイバーシティ& インクルージョン推進 働きがい改革	付加価値労働生産性*3	20.4%ダウン	29/30	2019年度比 25%アップ	15	70
		従業員満足度調査 （働きがいアンケート）	イキイキタイプ 56.2%		イキイキタイプ 50%以上	10	
		過去3年のメンタルヘルス による休業者の復職率	55.6%		80%以上	10	
		社会貢献活動の実施*4	実施		地域清掃や献血などの継続と 新たな貢献活動の実施	5	
		男性育児休業取得率	92.3%		男性育児休業取得率 30%以上	10	
		女性管理職人数	5名増/2年		2021～2025年で 7名増	10	
		ミッションをS H I F Tした数	8件/2年		8件以上/5年	10	
【技術の軸】 技術の伝承と革 新	N E X T事業の創出	「そだてる」ミッション 移行テーマ件数	0件/2年	12/22	5件/5年	20	55
	マーケティング力・ 研究開発力の強化	サステナビリティ製品の 連結売上高指数*5	17%アップ		2019年度比 25%以上アップ	20	
	生産体制再構築	モノ、ヒト、機器など 各種施策の実施	新業務システム活用 による生産最適化		品種統合、O E M、I o Tの 導入など各種施策の実施	15	
【顧客の軸】 お客様と共に歩 む	健全な財務基盤	営業利益率	△3.7%	10/22	7%以上	10	50
		ROE	△8.7%		7%以上	10	
	持続可能な調達と供給	持続可能な調達率 （金額ベース）*6	71.9%		70%	10	
		調達先監査件数	22件		50件	10	
	品質マネジメントの強化	品質クレーム件数削減率	0%		2019年度比 50%削減	10	

*1 2019年度の海外関係会社あたりの平均邦人人数を100としたときの指数

*2 粘着着・バイオマス事業の主要製品のバイオマス度×販売量を当社基準に基づき指数化

*3 当社基準の付加価値額を設定して算出、目標値は策定時点での見なしの労働時間、従業員人数を除いて算出

*4 新たな取り組みを実施した年度は5ポイント加算する

*5 従来の環境配慮型製品の売上高の対象範囲・基準を見直し、サステナビリティに貢献している製品として当社内で認定した製品の連結売上高で、2019年度を100として算出

*6 非ロジン系原料（石油系原料）を対象とし原料背景を踏まえた当社基準で算出

*7 目標値は見直す可能性がある。

*8 休業災害の集計期間を見直したため、2021年度分を遡及してポイントは2022年度で補正。

※ 青枠は2021年12月23日に追加した指標、赤枠はサステナビリティ・リンク・ボンドの取り組み目標（SPTs：サステナビリティ・パフォーマンス・ターゲット）を示す。